

隨筆

総合科学部

パンキョウとは？

「パンキョウは 楽勝科目で 単位取り」この句は一般学生の間で割に広く受け入れられているものである。ところで皆さんには最初のカナ文字に漢字を付けられるであろうか？もし正解を出せたらその人は相当に一般学生カタギのわかった人である。実はパンキョウとは般教であり一般教育の蔑称である。

この考え方は一般教育を無価値なものとし、出来るだけエネルギーをさかずこの期間をやりすごすことをねらったものである。

しかし一般教育の理念はもっと高い所におかれている。民主主義社会を根付かせるためには一般の人々に広い視野と高い見識を持ってもらわねばならない。良き市民であるためには全体観を持ったゼネラルな思考訓練が必要とされる。

エコノミックアニマルやミリタリー・アニマルであるためには general education は時間の無駄であり、負の効果を及ぼすものであろう。しかし民主的社会を作り維持してゆくためにはこの種の教育は必要な無駄であり、なくではない大切な期間である。ワークホリックや専門バカのアンチテーゼとして今ほど一般教育の重要性が増していく時ははないのではなかろうか。

以上の観点に立って現在の一般教育の問題点と改善すべき事項について私の考えを述べてみたい。

一般教育科目数は多すぎないか

まず第一に一般教育の授業に関する点から始めよう。一般教育科目の科目数が非常に多い、専門科目としてなら十分理解出来るが一般教育としてこれほど多くの授業科目を開設する必要はないようと思われる。良識のある市民を養成するための最低学ぶべきものはそれほど多くあるはずではなく、また科目が多ければ多いほど偏った聴講になり易く、楽勝科目の出現の割合も多くなるようである。

general education といえば私は哲学、歴史、政

総合科学部と一般教育

一般教育

総合科学部 磯道義典

第二外国語と数学

現在すべての学部において第二外国語が必修となっているが学部の多くにおいては英語以外はほぼ不必要になっている。たしかにドイツ文学を学ぶためには独語は必要不可欠であろう。しかし世界の現時点の情報を集めるためには英語だけで十分である。そこで私は第二外国語について数学との合算制を提案したい。すなわち第二外国語と数学の合計単位を8単位程度に義務づけるのである。この考え方を突飛だと思われる方もあるだろうがしかし数学は万国共通の視覚言語であり、論理的に物事を思考するための内部言語でもあるのでそれほど突飛なことではないのである。また理科系の学部の多くは数学を必修としているから問題はないし、文科系の学部でも少数の学生にはぜひ数学を真正面から取らせてやるべきだと思う。この時第二外国語必修のノルマがないことは学生により非常に助かることとなる。

必修単位数の問題

第二には各学部の必修単位数の問題について述べてみたい。general education は決して各学部のための基礎教育を行うためのものではないから、広い視野や高い見識をやしなうための一般教育に不当な偏向を与えるような必修単位の設定は行うべきではない。例えば数学系を10単位取らせる

か、自然分野を22単位取らせるとかのノルマは general education の理念に反するものである。学部のための基礎教育ならば一年生からでも各学部の責任において実施すれば良いのであって、総合科学部に負担をかける必要はないであろう。専門家養成のみを行えば良いという考え方では健全な全人教育が出来ず、ひ弱な高収量栽培種だけを作っていることになり、害虫にも天変地異にも生き残っていけないこととなる。

老教授の一般教育担当

第三に、一般教育への各学部の人的協力について述べてみたい。総合科学部の教官は一般教育から大学院教育まで合わせると前期後期とも4コマづつ授業を行っているのが普通である。これは普通の学部の2倍の負担となっている。この負担を多少とも緩和するために次の点を各学部に提案したい。定年3年前からは大学院学生を探らないことが慣行になっているはずであるから60歳を過ぎた教授には一般教育において適切な授業負担をお願いしたい。60歳まで大学に居れば学識も広く、高い見識も持たれているはずであるから一般教育は十分に可能なはずである。埼玉大などは各学部の教授だけが一般教育を行い、助教授には研究と少ない専門授業を割り振るのみであると聞いている。60歳以上の他学部教授の方々が週1コマずつの協力をしていただけるなら総合科学部の助教授の教育負担を減少させて研究成果を出す上でプラスに作用するものと思われる。

teaching assistant の必要

さらに総合科学部には助手、教室付事務官が少ない。研究上においても重要であるがそれ以上に教育負担の多さから teaching assistant としての助手制度が必要である。大学院の学生を時間給で雇いこれに当てることが許されるべきであるし、他にアルバイトに行くよりは高報酬を得られるなら

ばあまり裕福でない学生にとっても有難い事である。教室付事務官についていえば理学部では一小講座あたり一人あて置かれているのに総合科学部では十教官あたり一人くらいであり、定員削減によりさらに減らす方向にあるという。しかし世界をみわたしてもソウジ、コピー、お茶汲みまでさせられている大学教授がどこにあるだろうか。教官が十分活躍出来るように支援体制をととのえてこそ、その国の大手は立派なものとなるのである。日本の大学でも東工大あたりは助教授以上は研究費から秘書をやとっているし、ある有名私立大学教授などは3人の秘書をやとっている。私がいいたいのは実際的必要からいって4人程度の教官に対して1人の秘書を配置するぐらいのことは最低限必要だということである。これらの点でも大学内でのゆとり合いとともに政府や文部省の根本認識の変更を要請したい。

総合的視野の養成

以上思いつくままに気のついた事をのべて来たが現在の日本が専門家養成のみに走りすぎてゆとりを持たず、総合的視野の人間を養成しようとしていないことに対する批判を行って来た。この風潮が学生をして最初に御紹介したような句をなさしめたのである。今後日本が世界のリーダーの一人として伍してゆくためには広い視野と高い見識を持った相当多数の人間を世に送り出していかねばならないものと考える。こうした役割をはたせるのは総合大学の他ではなく、そのまた要は総合科学部における一般教育にあると思われる。

大学院大学の構想とともに大学2年までを切り離してしまう考え方もあるようであるが、効率一辺倒で十分世界に伍してゆけたこれまでならともかくも、これからだんだん困難に直面する時代にさしかかってちょうど逆のフェイズに切り換えるとする愚は犯さないでほしいと願うものである。